

シニア・エイジの糖尿病患者さん

「低血糖」にご注意ください

監修

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科 診療部長

横田 太持 先生

1

年をとるとともに、低血糖を起こしやすくなり、
また低血糖が起きても気付きにくなるので、
注意しましょう。

低血糖を起こしやすい

腎臓や肝臓のおとろえで
薬の効果が強くでる。
食事をきちんととれない。



低血糖に気付きにくい

低血糖でよくみられる
「汗」「動悸」「手のふるえ」
などがあらわれにくい。

2

下のような症状がみられたときも、
低血糖になっていることがあります。
症状を感じたら、すぐに対処しましょう。



ふらふらする



落ち着かない

体に力が
はいらない計算や会話が
しにくくなる

低血糖の症状を感じたときは

すぐに、ブドウ糖やこれらを含む飲料をとります（服用している薬によっては砂糖でもよい）。ふだんから低血糖の対処方法を主治医によく聞いておきましょう。

3

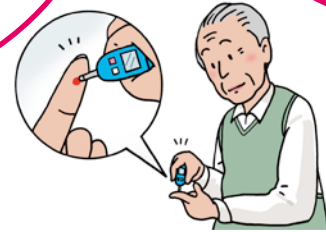
食事に注意したり、ご家族に協力してもらって、
低血糖を防ぎ、またひどくならないようにしましょう。



ご家族の方に、低血糖の症状と
対処方法について、知ってもらい
ましょう。



炭水化物を食べられないときは、
果汁やくだものをとるように
しましょう。



いつもと違う症状があったら、すぐに
血糖を測ってみましょう。血糖が
測れないときは、ブドウ糖を
とって様子をみましょう。

認知症と低血糖の関係

認知症や、もの忘れ(認知機能障害)がある人は、意識がなくなるような重い
低血糖をおこす危険性が高いことがわかっています。これは、低血糖の症状に
気付きにくく、また低血糖に対処をすることが遅れてしまうためと考えられます。
また重い低血糖を繰り返すと、認知症になりやすいこともわかっています。

認知症やもの忘れのある方は、重い低血糖にならないよう、
とくに注意しましょう。

また、認知症にならないためにも、日ごろから低血糖に注意し、
早めに対処できるようにしましょう。



作成

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086 神戸市中央区磯上通7丁目1番5号

EA-INS-HP038(R0)
2016年3月作成